

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末
創刊日：1999 年 12 月 8 日
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No.14 2006 年 5 月 20 日号

編集: editor@cna.jp 広告: pr@cna.jp 読者登録: <http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

NEC エンジニアリング、パソコン USB 接続用の高性能マイクロフォンユニット「Voicepoint EX」を発売



Voicepoint EX

NEC エンジニアリング株式会社(東京都港区)は、パソコン USB 接続用の高性能マイクロフォンユニット「Voicepoint EX」を商品化したと発表。住友商事九州株式会社(福岡県福岡市)を国内総代理店として5月10日より販売開始した。

「Voicepoint EX」は、数十人規模の会議室で、ウェブ会議システムや VoIP のインターネット電話などを利用できるマイクを内蔵した製品。音声処理などを行う「インターフェイスボックス」と AMU マイクロフォンユニットを2台標準装備し、さらにAMUを2台追加(オプション)することにより、数十人規模の会議での使用が可能。スピーカーは、別途市販のものを使用する。

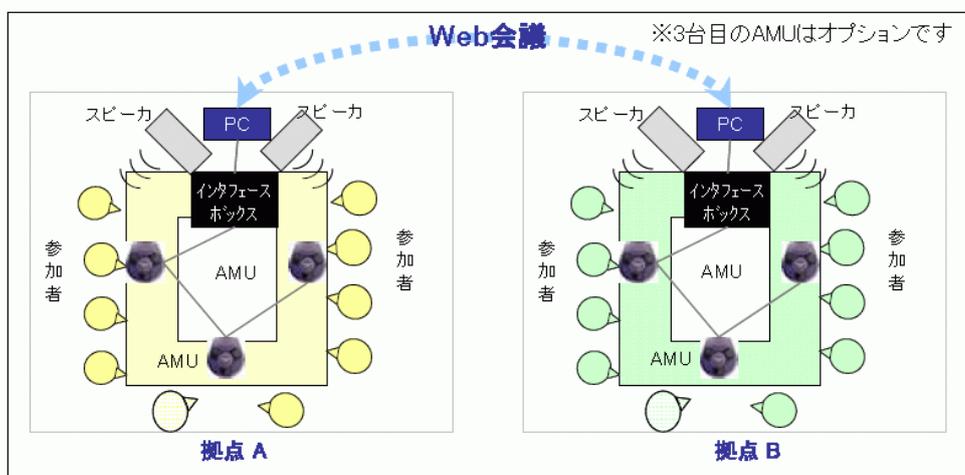
今回の製品は、2004 年 12 月から販売している、USB 対

応卓上型ハンズフリーマイクスピーカー「Voicepoint mini」に加え、USB 対応製品のラインナップ拡充となる。Voicepoint mini は、少人数規模を想定した製品で、Voicepoint EX は数十人規模のユーザー向けの製品としての位置づけ。

通常ウェブ会議は、ヘッドセットや小型のスピーカーマイクを使うことによる数人程度のパーソナルな使い方が主流だが、Voicepoint EX は、まずパソコンの USB ポートからインターフェイスボックスへ接続し、インターフェイスボックスから AMU マイクロフォンを数珠繋ぎで接続する。1台の AMU マイクで約 10 名程度の範囲(2~3m)をカバーする。それを最大4台まで接続が可能となっている。360 度の無指向性マイク。オートゲインコントロールやノイズキャンセラーなどを組み合わせた ABF(Adaptive Beam Forming)機能を搭載。音声帯域は、7KHz までサポート。

また、専用のオプションケーブルを使用することにより、携帯電話、携帯テレビ電話、PHS などとの接続も可能。USB 接続以外にもアナログの Line 入出力も持つ。

インターフェイスボックス全面には、オンオフスイッチ、USB ポート、マイクやスピーカーの LED 表示などがある。



AMD マイクは、マイクが3つ内蔵されているが、入力方向と音の強さを示す LED ランプがある。またミュートボタン(消音)も付いている。

「今までこういった環境をウェブ会議システムのために行うとすると、ミキサー、スピーカー、ハンドマイクなどのさまざまな機器を組み合わせる必要があり、機器設置の煩わしさに加え、マイクの受け渡し時に発生するノイズや参加人数にあわせたマイクの増設によるハウリング及びエコーの発生、タイムリーな発言の難しさなどの問題があった。Voicepoint EX は難しい設定などはなく箱から出して、パソコン、インターフェイスボックス、AMU マイクを接続すれば設置は完了。誰でも簡単にすぐ使える製品だ。」(NEC エンジニアリング)

「また、Voicepoint EX は、最新のエコーキャンセラーを採用しており、語尾の音切れやハウリングが少なく、話者方向を自動検出する機能(ABF 機能)や話者音量を最適なレベルに自動補正する機能により集音性能の向上や集音範囲の拡大、そして鮮明で自然な会話が可能。」(NEC エンジニアリング)

Voicepoint EX の標準価格は、298,000 円(税抜き)。年間 2000 台の出荷を見込む。NEC エンジニアリングと住友商事九州では、ウェブ会議システムを導入済みの企業を中心に販売を行っていくほか、企業内 e ラーニングなど用途を会議に限定せず販売展開を行っていく考え。

インターフェイスボックス重量:1.2kg、外形寸法は、210mm(W)x150mm(D)x40mm(H)。インターフェイスボックスと AMU マイクの接続用ケーブル(5m)、LINE 用のケーブル(3m)、USB ケーブル(A-B 型 3m)は同梱。オプションとして、VoicepointEX 用キャリングバック、増設用 AMU、携帯電話接続ケーブルがある。

(Voicepoint mini 関連 CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.20 2004 年 12 月 15 日号)

NTT-AT、エコーキャンセラー内蔵 RealTalk シリーズの後継 2 機種を発表

NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、

NTT サイバースペース研究所が開発したエコーキャンセラー内蔵 RealTalk の2機種「RealTalk ST」と「RealTalk 72」を発表。ウェブ会議やテレビ会議システム用途を想定した製品。



RealTalk ST

RealTalk ST は、Real Talk 70ST の後継機種で、従来の同様な機能を持つ装置の1/4での低コストで導入が可能という。

特徴としては、(1)CD 帯域ステレオエコーキャンセラー技術及びエコー・ノイズ圧縮技術を搭載。(2)騒がしいオフィスでの使用でもエコーとノイズを抑えて快適な通話ができる。(3)CD 品質(20khz 帯域)のハンズフリー拡張通話が可能。(4)入出力レベルが LED で用意に確認可能。(5)エコー消去特性やノイズリダクション機能の有無などをユーザーの要望に応じて複数のパラメーターから選択可能。(6)市販のPCサウンドカード、業務用のコーデックのどちらにも接続が可能。

ライン出力(RCA ピンジャック)、オーディオ入出力(ステレオミニジャック)、マイク入力(ステレオミニジャックx2)を装備。RealTalk ST の外形寸法は、270mm(W)x150mm(D)x35(H)mm。販売価格は、498,000 円(税抜き)。2006 年 7 月 3 日より販売開始予定。



RealTalk 72

RealTalk 72 は、「Real Talk 70」と「Real Talk 71」の後継機種。特徴としては、(1)方向別 AGC 技術及びエコー・ノイズ圧縮技術を搭載。(2)遠くの小さい声も近くの大きな声も方向別(発話者毎)に音量を自動調節。(3)騒がしい

オフィスでの使用でもエコーとノイズを抑えて快適な通話が可能。(4)入出力レベルで容易に確認可能。(5)デュアルブート方式。方向別 AGC 機能なし、あるいはありで選択。(6)市販されている PC のサウンドカード、業務用のコーデック、USB に対応。

ライン入出力(RCA ピンジャック)、音声入力(RCA ピンジャック)、音声出力(ステレオミニジャック)、USB(1.1 に対応)、専用マイク入力(専用マイクユニット接続用)、マイク入力(3.5 ミニジャックx1、プラグインパワー対応)。

RealTalk 72 の外形寸法は、210mm(W)x150mm(D)x35(H)mm。販売価格は、248,000 円(税抜き)。2006 年 9 月より販売開始予定。

(Real Talk 関連 CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.17 2004 年 10 月 31 日号、Vol.6 No.18 2004 年 11 月 15 日号)

WebEx が Sony VAIO ユーザー向けウェブ会議サービスを開始



VAIO Notebook typeS のデスクトップ画面 画面左下から 2 番目のアイコンが Meeting Center for VAIO

左が拡大したもの。

ウェブ会議サービスの大手ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン株式会社(東京都港区、以下 WebEx)は、Sony VAIO ユーザー向けのウェブ会議パッケージサービス「Meeting Center for VAIO(ミーティングセンターフォーVAIO)」の提供開始を発表した。

ソニー株式会社(東京都品川区)が日本国内で発売を開

始する「VAIO Notebook typeS」のデスクトップ画面上に WebEx セットアップヘリンクするアイコンが搭載される。これにより、VAIO ユーザーは VAIO に搭載される内蔵カメラや Bluetooth 機能を活用して、WebEx のウェブ会議サービスを利用することができる。

今回 VAIO Notebook typeS に搭載される Meeting Center for VAIO は、WebEx が提供している WebEx MeetingCenter を簡易化したバージョンで、VAIO ユーザー向けに特別価格で提供される。

Meeting Center for VAIO で提供される機能は、デスクトップ共有、リモート操作、ミーティングスケジュール&Eメール招待状、チャット、注釈、マルチポイントビデオ(4地点まで可能)、プレゼンテーション共有、Outlook/Notes 統合、VoIP(IP 音声、無料)。最小ポートが1で参加者の上限は5まで。言語については、日本語以外には、英語、仏語、独語、伊語、西語、簡体字中国語、繁体字中国語をサポート。

アプリケーション共有、ドキュメント共有については通常の WebEx MeetingCenter では単独の機能としてそれぞれ提供されているが、Meeting Center for VAIO では、デスクトップ共有の機能を使って、アプリケーションやドキュメントが共有できるようになっている。同社のグローバルネットワーク WebEx Mediatone Network を通じて提供される。月額 7,980 円(税込み)。年間契約の場合は、月額 6,720 円。

VAIO ユーザーは、デスクトップの WebEx アイコンから VAIO ユーザー専用ページに入り、そこから 14 日間のフリートライアルを申し込むとすぐにサービスを体験できる。

【編集長橋本のコメント】

北米の WebEx が 2005 年 11 月に同様なサービスを米ソニー、IPテレビ会議サービスプロバイダー Glowpoint 社の 3社で発表し、北米でのソニーのテレビ会議ソフトウェア(ソニーによると、日本ではリリース予定はないようだ。)に WebEx のアイコンを搭載、IPテレビ会議から

WebEx のセッションにアイコンをクリックすることによりウェブ会議セッションが行えるというものだが、日本の場合は、アイコンをクリックすると WebEx のサイトへアクセスし、利用登録するとウェブ会議サービスを利用できるというもの。

(CNAレポート・ジャパン Vol.7 No.20 2005年11月30日号)

ポリコムジャパン、NAT / ファイアウォール越えを可能にするセキュリティアプライアンス装置を発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、NAT / ファイアウォール越えを可能にするセキュリティアプライアンス装置「Polycom Voice Video Interface Unit(ポリコム・ボイス・ビデオ・インターフェイス・ユニット、Polycom V2IU)」を発表。



Polycom V2IU

Polycom V2IU の仕組みとしては、Application Aware Networking 技術に基づき、セキュリティリスクを回避しながら、ビデオ及び音声通信時に、組織内でのみ通用するIPアドレス(ローカルアドレス)と、インターネット上のアドレス(グローバルアドレス)を透過的に相互変換する。同製品は、アプリケーションゲートウェイとステートフルパケットインスペクション型のファイアウォールを採用し、包括的なアプリケーション認識機能を持つセキュリティを提供する。この方法により、映像端末と音声端末の必要に応じて動的に TCP ポートと UDP ポートを開閉する。

また、そのほかの特徴としては、(1)映像及び音声のトラフィックを最短経路で通過させることにより、パケットの遅延やロスや揺らぎなどを最小限にする。(2)ネットワークの帯域幅を最大限に広げながらトラフィックを効率よく活用することができる。(3)既存のファイアウォール/NAT 越えソリューション

との併用が可能。(4)国際標準 H.323 に準拠しているため、他社製 H.323 対応のファイアウォールやセッションボーダーコントローラーとの互換性がある。

Polycom V2IU は、2006 年後半よりポリコム認定販売代理店を通じて発売される予定。メーカー希望小売価格は、339,000 円(税抜き)から。

沖電気ネットワークインテグレーション、トーマンサイバービジネスのビデオ会議と沖電気の IP テレフォニーを連携したユビキタスソリューションを提供

沖電気工業株式会社(東京都港区)、沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(東京都江東区)とトーマンサイバービジネス株式会社(東京都港区)の3社は、ビデオ会議システムと IP テレフォニーを統合したオフィス・コミュニケーションのソリューションを共同で提供していくことに合意。

沖電気の IP テレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server SS9100(IP コンバージェンスサーバ)」と、トーマンサイバービジネスのビデオ会議システム「Visual Nexus」を融合させたソリューション。沖電気ネットワークインテグレーションが今後提供していく。

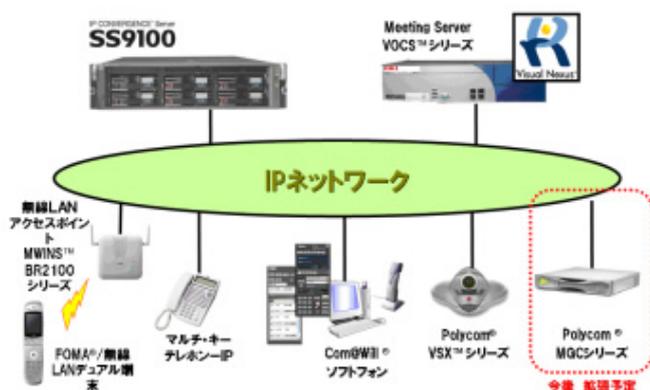
本ソリューションは、SIP 対応 IP テレフォニーサーバ SS9100 と H.323 対応の Visual Nexus、そして Visual SIP/H.323 ゲートウエイである「Nexus SIP Option」を連携することにより、IP 電話と、ビデオ会議、ウェブ会議を同一の IP ネットワーク環境下で相互接続して使用することを可能とする。

たとえば、SS9100 配下にある「Com@WILL ソフトフォン」から、Visual Nexus SIP Option で SIP から H.323 ヘブプロトコル変換を行い、H.323 対応である Visual Nexus へ接続が行える。

今後の販売展開としては、IP 電話システムを導入している企業や新規に導入を検討している企業に対して、H.323 に対応したポリコムやソニー製のビデオ会議端末

や Visual Nexus との連携によるオフィス・コミュニケーション改善の提案活動を行っていく。

沖電気ネットワークインテグレーション、ポリコムのビデオ会議と沖電気 IP テレフォニーを連携したコビキタスソリューションを提供



ソリューション構成図

沖電気工業株式会社(東京都港区)、沖電気ネットワークインテグレーション株式会社(東京都江東区)とポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)の3社は、ビデオ会議システムとIP テレフォニーを統合したオフィス・コミュニケーションのソリューションを共同で提供していくことに合意した。

沖電気の IP テレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE Server SS9100(IP コンバージェンスサーバ)」と、ポリコムのビデオ会議システムを融合させたソリューション。沖電気ネットワークインテグレーションが今後提供していく。

沖電気の SIP 対応の IP テレフォニーサーバ SS9100 は、トーマンサイバービジネスの SIP/H.323 対応の「Visual Nexus」及び「Visual Nexus SIP Option」と連携させた上で「Polycom VSX シリーズ」に接続する。これによりひとつの IP ネットワークの下で SIP 対応機器も H.323 対応機器も同時に使用できる環境を実現する。

ポリコムジャパンによると、「ビデオ会議システムは、企業における遠隔地感の有効なコミュニケーション手段だが、専用

端末のある会議室といった限られた場所でしか利用できないのが現状。そのため、ビデオ会議システムの場所の制約を減らし、必要な人が極力いつでも、どこでも遠隔会議に参加できるシステムが求められていた。」と今回のソリューション提供の背景を述べる。

日本アバイアとポリコムジャパン、統合ソリューションを日本市場向けに発表

日本アバイア株式会社(東京都港区)とポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、アバイアの IP テレフォニー製品とポリコムのビデオ会議の通話機能をシームレスに統合するソリューション「Avaya Video Telephony Solution(アバイア・ビデオ・テレフォニー・ソリューション)」を日本市場向けに発表。

Avaya Video Telephony Solution では、「Avaya Communication Manager(アバイア・コミュニケーション・マネージャー)」と呼ばれる、ネットワーク上の IP 電話などの呼処理、呼制御を行うソフトウェアに、ポリコムのビデオ会議機能を登録・認証することにより、アバイアの IP 電話とポリコムのビデオ会議間で、音声端末やビデオ会議端末といった端末機能の違いを意識せず呼び出し、通話、転送の機能を提供する。



日本アバイア代表取締役社長 藤井克美氏(左)と、ポリコムジャパン 代表取締役社長 奥田智巳氏(右)

たとえば、外線から入ってきた電話をポリコムのビデオ会議端末に転送して通話したり、ビデオ会議中にアバイアの

ソフトフォンやIP電話を呼び出したりといったことが簡単にかつ効率的に行えるようになる。さらに、IT 管理者がすべての通信ネットワークを効率的に監視しトラブルに対処できる。

ポリコム の H.264、Siren14、People+Content や内線での多地点接続オプションなどの利用は可能。

併せて今回「Avaya Desktop Video Edition 2.0(アバイア・デスクトップ・ビデオ・エディション 2.0)」を発表。Polycom PVX 機能をアバイアの IP 電話ソフトウェア「Avaya IP Softphone(アバイア IP ソフトフォン)」に統合したソフトウェアアプリケーション。プレゼンス、保留、転送、ミュート、マイクロソフト Outlook とインスタントメッセージングとの互換性、4 拠点までビデオ表示機能などを提供している。

今回の提携は両社のグローバルな戦略的提携(2003 年 12 月に北米での提携を発表)に基づいて開発された IP ベースの次世代ビデオ会議及びコラボレーションソリューション。グローバルでの提携の日本での展開が今回の発表にあたる。

ちなみに、米アバイアは 2003 年の提携時に北米ではポリコム端末の販売してきた実績がある。日本アバイアは、ポリコム端末も販売する。



ポリコムの VSX3000 や MGC25、アバイアのソフトフォン、IP 電話機

Avaya Video Telephony Solution は 2006 年 4 月末から日本アバイアの販売代理店を通じてすでに販売開始している。

(北米での提携発表:CNA レポート・ジャパン Vol.5 No.21

2003 年 12 月 15 日号)

アルカテルとポリコム、コラボレーションソリューションで戦略的パートナーシップ契約を締結

フランスのアルカテル社と米ポリコム社は、企業向け統合型コラボレーションソリューションの販売に関して、複数年に及ぶ戦略的パートナーシップ契約を締結したことを発表。同時に日本国内でもソリューションを提供する。

今回のパートナーシップによって、SIP をベースとするエンドツーエンドのビデオ会議ソリューションを提供する。ポリコム社のビデオ会議ソフトウェア「Polycom PVX」及びビデオ会議システム「Polycom VSX シリーズ」、多地点サーバー「Polycom MGC シリーズ」と、アルカテル社の IP コミュニケーション・プラットフォーム「OmniPCX Enterprise」、アプリケーション電話機「IP Touch」、コラボレーション・アプリケーション「My Teamwork」などの音声、映像、ウェブ会議、インスタントメッセージング、プレゼンスを統合したソリューション。

この統合ソリューションは、アプリケーションとデバイスのシームレスな統合のために、社内及び企業間の会議室内にあるポリコム社のグループビデオ会議システムとデスクトップを結び、ユーザーが既存のインスタントメッセージングや電話での音声通話に即映像を追加できる。また、ネットワーク管理者は、ディレクトリーサービスやダイヤルプランの一元管理を行い、統合された環境を遠隔地で導入、運用、管理することができる。

トーマンサイバービジネス、10 月より商号変更予定

PC 向けのビデオ会議システム「Visual Nexus」を開発するトーマンサイバービジネス株式会社(東京都港区)は、5 月 17 日の取締役会にて同社の商号変更を決議し、6 月 22 日の第 10 期定時株主総会にて諮ると発表。

新商号は「TCB テクノロジーズ株式会社」。株主総会に

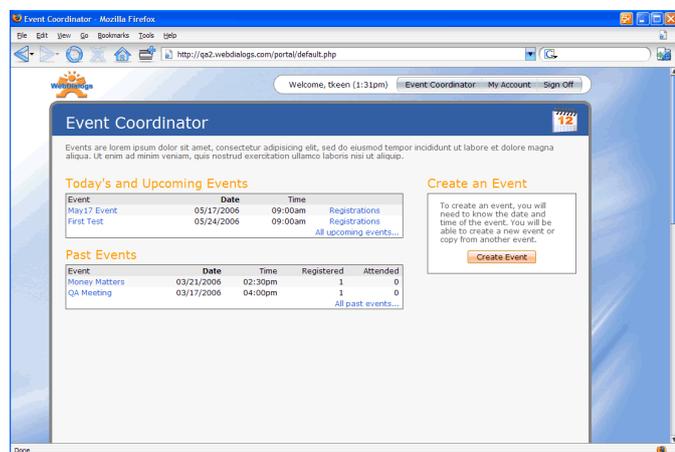
て承認を得られれば新商号へは、10月1日から変更となる。

同社は、1996年7月に株式会社トーメンより分離。トーメンの小会社あるいは関連会社としてブロードバンドインターネットソリューション事業を行ってきた。

昨年10月のトーメンサイバービジネスが実施した第三者割当増資によりトーメンの議決権比率が20を下回った。自社のアイデンティティと事業の方向性を明確にし、事業拡大を図っていくということから今回の商号変更を行う。

米ウェブ会議 WebDialogs 社、Event Coordinator モジュールのベータ版、Skype 用データ共有 Unyte のバージョン 1.1 を発表

米ウェブ会議システム WebDialogs 社は、同社のウェブ会議システム「WebInterpoint (ウェブインターポイント)」と「Meeting Central(ミーティングセントラル)」用の新しいモジュール「Event Coordinator モジュール」のベータ版を6月1日にリリースすると発表。



Event Coordinator

製品版は7月か8月にリリースの予定。Event Coordinator モジュールでは、ウェブ会議のユーザーが Webinar セッションを簡単に開始するためのモジュール。

Webinar(ウェビナー)とは、ウェブ会議でオンラインセミナーを行うこと。ウェビナーの予定設定から実施、事後のフォローアップ、セッション分析とレポート機能などが含まれる。

また、Skype 用のデータ共有プラグイン「Unyte(ユナイト)」の新しいバージョン 1.1 を発表。Unyte は、WebInterpoint のアプリケーション、ドキュメント共有、リモートアクセス機能の部分をプラグイン化したもの。新しいロック&フィールにしたユーザーインターフェイスの部分とミーティング機能を追加。

(インタビュー記事:CNAレポート・ジャパン Vol.8 No.10 2006年4月10日号)

(プロダクトレポート:CNAレポート・ジャパン Vol.8 No.13 2006年5月10日号)

ショートニュース

◆株式会社千葉銀行(千葉県千葉市)と株式会社セブン銀行(東京都千代田区)は、テレビ電話による住宅ローン及び資産運用の相談を行う。両銀行間で銀行代理業務に関する業務提携を行ったが、セブン銀行が千葉銀行の代理店として各種の窓口サービスの提供を行う一環でテレビ電話サービスが提供される。

◆ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、同社本社ビル内に Polycom Japan 技術検証センターを2006年6月に開設する予定。新製品導入前の技術検証や大規模運用ユーザー環境を再現し、問題解決の時間短縮などを図る。

◆中国銀行業監督管理委員会(China Banking Regulatory Commission, CBRC)は、ポリコムのビデオ会議システムを導入。導入システムは、「Polycom VSX7000e」や多地点接続装置「MGC-100」、ビデオ会議運営管理システムなど。H.323/SIP ベースの中国全土に設置した IP ネットワークで1920kbpsの帯域までサポートした通信環境でビデオ会議ネットワークを運用する。

◆ヨーロッパにおける最大級のエネルギー供給会社の仏 EDF(エレクトリシテ・デ・フランス)社の100%子会 EDF トレーディング社は、トーメンサイバービジネス株式会社(東京都品川区)が開発したPC向けH.323ビデオ会議システム「Visual Nexus」を導入した。Visual Nexusの海外事業展

開の拠点である、同社の子会社 Visual Nexus 社の発表による。

◆インドの A&T Network Systems Pvt.社は、トーマンサイバービジネス株式会社(東京都品川区)の「Visual Nexus」のインドにおける販売代理店契約を締結したと、Visual Nexus の海外事業展開の拠点である、同社の子会社 Visual Nexus 社が発表した。A&T Network Systems Pvt.社の本社は、インドのマデュライ。1996 年設立。テレビ会議システムや VoIP 関連のソリューションを提供する。アエスラのテレビ会議システムを 2003 年インド市場で発表。27 名の社員で ISO9001 を取得している。

◆フランスの Visuadis 社は、トーマンサイバービジネス株式会社(東京都品川区)の「Visual Nexus」のインドにおける販売代理店契約を締結した。Visual Nexus の海外事業展開の拠点である、同社の子会社 Visual Nexus 社が発表。Visuadis 社は、IP コンバージェンス(ビデオ、音声、データの統合)ソリューションで実績がある会社。

◆SPIRIT DSP 社の発表によると、イスラエルのラドビジョン社が、SPIRIT DSP 社の XDAIS 準拠の SPIRIT 音声ソフトウェアコーデックを採用したと発表。音声ソフトウェアは、ラドビジョン社のテレビ会議システム製品に組み込まれることになる。

◆イスラエルのテレビ会議メーカー Emblaze-VCON 社は、イギリスの Direct Visual 社とディストリビューション契約を締結した。Direct Visual 社は、Emblaze-VCON 社のマスターリセラーとなる。VCON 社は、Emblaze 社に 2005 年 9 月買収合併されている。(CNAレポート・ジャパン Vol.7 No.16 2005 年 9 月 15 日号)

◆AvistarVOS ソフトウェアプラットフォームを開発する米 Avistar 社は、IBM のウェブ会議、インスタントメッセージング機能を提供する Lotus Sametime 7.5 へテレビ会議機能を付加するプラグインを提供する。オンライン buddylist(プレゼンス機能)からクリックするだけでコールすることができる機能を使い、1対1あるいは多拠点のテレビ会議が行える。将来のバージョンではこれらに加え、インタラクティブブロードキャスト

ティング、ビデオコンテンツ制作・発行機能なども付加予定。また、Avistar 社は、「AvistarVOS v8.5.1」を発表。「AvistarVOS v8.5.1」は、IBM の「Workplace Managed Client 2.6」に統合。

業績発表レポート

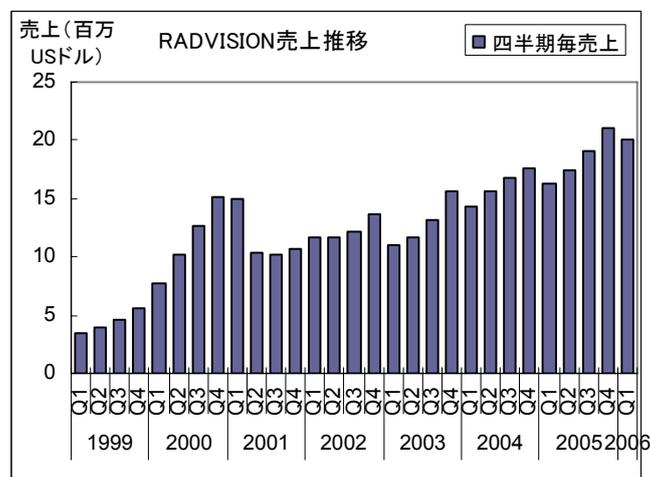
NASDAQ 上場企業の業績をレポートします。
2006 年第一四半期 (1 月-3 月)

ラドビジョン (イスラエル)

ラドビジョン社の第一四半期は、2010 万 USD (約 22 億 6 千万円)で、同社によると、「第一四半期としては、過去最高の売上を記録。事業予想以上の結果がでている。無借金での経営を行っている。」と同社の業績発表で CFO Tsipi Kagan 氏が好結果を発表。

MCU 製品関係の NBU 部門が、1410 万 USD (約 15 億 8700 万円)、ツールキットなどの関係の TBU 部門が、600 万 USD (約 67 億 5000 万円)。

地域別売り上げの割合は、南北米州が 49%、EMEA が 32%、アジア太平洋が 19%の 2005 年第四四半期の 14%から大幅に増えた。



米国防省の DISA の IP テレビ会議ネットワーク構築プロジェクトで、シスコの IPVC シリーズが導入されたが、IPVC へ OEM 供給をしているラドビジョンとしても大型受注となり今四半期の強い売上に貢献した。シスコは同社としては、トップ顧客。IPVC シリーズのネットワーク機器を独占で MCU 装置など提供している。

NBU 部門では、3G 関係の売り上げが、84%増加。アジア

が強い売り上げを見せた。香港の通信事業者ではIPと3Gのゲートウェーサービスがあり、ほかでは日本等。現在はパイロット系の展開が多いが今後実サービスへ動くと期待。

3G以外では、テレビ会議端末向け同社製MCUを20万台中国へ販売、日本でも受注があり今四半期ではアジア太平洋地区では日本の売り上げがトップだった。

同社のデスクトップ会議システムである「Click To Meet」の受注は、日本、インド、韓国、台湾などの教育、金融、政府系などからあった。

北米でも顕著な動きがあり、ラドビジョンのパートナーであるアエスラ社と協同で、北米シーメンスからテレビ会議関連の受注を得た。

他の大型受注としては、モトローラネットワークグループ、米国特許庁などもあった。

また、会議サービスプロバイダーの米 Intercall 社、IPテレビ会議サービスプロバイダーの Glowpoint 社との提携も発表があった。

さらに、3Gを使ったビデオコールセンターなどの案件も今後出てくるようだ。

TBU 事業部門は、北米、EMEA、アジア太平洋とすべての地区で事業が拡大し、特に 3G や SIP 用のツールキットの販売やライセンス、メンテナンスサービスなどの売上げが強かった。業績発表では、中国企業や北米でのツールキットの採用にも振れ、「今後 TBU 事業での種まきが将来の NBU 事業での刈り取りにつながる。」と、CEO Boaz Raviv 氏が業績発表でコメントした。

現在社員数は、全世界で約 450 名。半分近くが R&D に従事。今後 R&D 要員を中心に人員を強化する予定。CFO Tsipi Kagan 氏は、今年中に 10%増程度と述べる。

(DISA 関連:CNAレポート・ジャパン Vol.7 No.20 2005 年 11 月 30 日号)

セミナー・展示会情報

< 日中同時開催 > 中国 IT セミナー2006 ～ 中国市場で成功するための Communication & Security ソリューション ～

日時:2006 年 6 月 2 日(金) 15:00～
会場:KDDI 株式会社 20F 大会議室
(東京都千代田区飯田橋 3-10-10 ガーデンエアタワー)
主催:KDDI 株式会社、ソニーマーケティング株式会社、日

本ヒューレット・パッカート株式会社

詳細:

<http://www.sony.jp/products/Professional/index/information/20060501.html>

IP-TV 会議システム トップ 3 メーカー 集結」セミナー

日時:2006 年 6 月 2 日(金)13:30 ～(受付 13:00 開始)

会場:株式会社大塚商会 本社ビル 3F セミナールーム

主催:株式会社大塚商会

協力:ポリコムジャパン株式会社/タンバーク日本支社/ソニーマーケティング株式会社

詳細:<http://it.otsuka-bs.co.jp/otsuka/event/bb0602/>

Video-IT セミナー2006 『最新!映像活用システム事例紹介 10 選!!』

日時:2006 年 6 月 2 日(金)

第 1 回 13:00～15:00/第 2 回 16:00～18:00

会場:株式会社アイ・ビー・イー デモルーム

WebVicon「Web 会議システム プリインストールサーバ」、EZ プレゼンター「マルチメディア・コンテンツ自動作成システム」など。

詳細:

http://www.mpeg.co.jp/event_seminar_campaign/event_seminar/index.html#videoit

Web 会議システム & インターネット VPN 活用による経費削減セミナー

日時:2006 年 6 月 2 日(金) 15:00～17:00

会場:NEC ネクサソリューションズ

ネクサソリューションプラザ

東京都港区三田 1-4-28(三田国際ビル 1 階)

主催:NEC ネクサソリューションズ株式会社

共催:日本電気株式会社、NECシステムテクノロジー株式会社

詳細:

<http://www.nec-nexs.com/news/event2006/0602.html>

*CNA レポート・ジャパン編集長橋本もこちらのセミナーで講演させていただくことになりました。

編集後記

今年からの業界の動きのポイントとしては、(1)SIP をベースにしたIPコンバージェンス、(2)FMCを含めたモビリティ、(3)コミュニケーションのパーソナル化、(4)HDを含めた映像音声の高品質化、(5)H. 325などの新しい標準化への動き、などかと見えています。その中で、通信機器、会議システム、ソフトウェアなどの各企業の提携の動き、統合ソリューションの発表が活発に行われてくると思われる。

編集長 橋本啓介